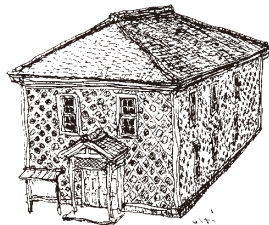


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

● 法学部長

いわたにじゅうろう
岩谷十郎

始まりの時に——”慶應“義塾の150年の節目に

みなさん、慶應義塾大学へのご入学、まことにおめでとうございます。これからの大学生活がみなさんにとっての実り多い時間となりますようにお祈りしております。

ところで、今日の慶應義塾の発祥は、安政5（1858）年、築地鉄砲洲の中津藩奥平家中屋敷に開かれた蘭学塾に遡るといわれ、今年で160年目を迎えます。ただしその蘭学塾には当時定まった名前はなく、蘭学所とも福澤塾とも呼ばれていました。では、「慶應義塾」の名乗りはいつ上げられたのでしょうか。それは慶応4（1868）年、今からちょうど150年前の4月、芝新銭座に移転した時のことでした。

ふつう命名により物事は「始まる」ものと考えますが、慶應義塾では、その発祥と「始まり」とが10年間もずれているのです。そこには実際に大きな変化がありました。発祥時の蘭学塾は中津藩の命令にもとづく施設だったのに対し、1868年の塾は、福澤先生と同志が集って自分たちで創設した洋学塾でした。

幕末の動乱期に、福澤先生は英語／英学の必要性に目覚め、3度もヨーロッパやアメリカに出かけたことは有名な話です。帰国後、芝新銭座に塾を開設した福澤先生には、当時の日本人としては稀有の経験に裏打ちされた、新しい理念と情熱とが備わっていたに違いありません。まさにそれまでとは異なり、それまでにはなかった何かが、一人の人物の強力なイニシアティブによって新しく始まったのです。慶應「義塾」の命名はその時に為されたのです。

「創立の年号に取て仮に慶應義塾と名く」——これは福澤先生の言葉ですが、「慶應義塾」は仮称のまま150年目を迎えたこととなります。しかしこれも、年号を学校名に加える走りであったとすれば、平成の次はどのような名称の学校が現れてくるのでしょうか。

慶應義塾には2つの誕生の物語があります。新緑に胸はずませるみなさんの裡にも、きっと新しい物語が誕生していることでしょう。